

おお大勝利

令和3年度 山東サッカー部報第7号 (11月10日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県新人 初戦で酒東に屈する

11月3日(水)県新人戦の1回戦が行われました。例年は、9月初旬に地区新人戦という地区予選があり、それに勝ち抜かないと県大会に出られない。山東はここ最近、予選を勝ち抜けず、県新人戦に出場できないでいた。しかし、**今年はコロナウイルス禍の関係で地区新人が実施できず、一発県大会の実施となり、全チームが出場できるようになった**。情けないと思われても仕方ないですが、久しぶりの県新人への出場は素直に嬉しかった。

さて、初戦は**11月3日¹、1回戦の山東の相手は酒田東**。今年進学校大会が縮小された関係で10月頭に対戦できなかったが、今シーズンY3で2位となり、1位がY2でBチームが残留した東海のCチームのため、繰り上がりでY2に昇格することとなった勢いあるチーム²。**Y2への昇格チーム(酒田東)とY3への降格チーム(山形東)との対決**。勢いが違うと言われればその通りだが、山東もリーグ戦での苦しみを経て、少しずつチーム力が上がってきた。ここらで一発、悔しかった今シーズンを締めくくる「山東の逆襲」を見せたいところ。

会場は酒田市の光ヶ丘球技場。実は私、ここで試合するのも初めてだし、実際行くのも初めて。何年も前に整備され利用されるようになった人工芝の会場。ですが、これまで巡り合わせが悪かった。どこにあって、どうやって行くのか、聞くのも恥ずかしかったので、少し迷いながら会場到着。選手は午後の試合に向けて当日バスで移動したが、私は午前中の帯同審判の役もあり、気合を入れて前泊しました。この監督の無駄な気合がいけなかったか。

午前は何とか天気は持ったが、午後は不安定だった。降ったりやんだり。遠方ではあったが、**清野総監督(後援会名誉会長)**と**後藤報道局長**は顔を見せて下さった。途中でお帰りになったが、日大山形を長年率いられ、私も選手時代そして顧問になってからもご指導を頂いている**塩野先生**も会場にいらっしゃった。保護者は・・・無観客なので、会場外から応援して下さっていたことでしょう。

試合が始まると、長いボールをヘディングで跳ね返す、ロングボールを使いながら陣地を回復するというシンプルなプレーができず、そのあいまいな展開の中で、立て続けに酒東に得点シーンを与えてしまう³。酒東のアタッカー、スピードもあるし、スキルもある。しかし、フィニッシュの精度を欠き、山東事なきを得る。もちろん、**山東GKジャッカルことソーゴ**のポジショニングや前へのプレッシャーも良かった。山東の攻撃は、**2年FWカナタ**と**1年FWマサツナ**のスピードを生かしたいところだが、酒東DFもフィジカルの能力が高く、スピード

¹ 例年、県新人は、16チーム参加の4日間の日程で実施していましたが、今年は全県一斉トーナメントとなったので、11月3日・6日・7日・13日・14日・15日という6日間の日程で行われることになりました。

² もう一チームのY2への昇格チームは米沢興譲館。進学校2チームの昇格ですね。

³ ボランチがヘディングで安定して跳ね返せない問題もありましたが、CBがヘディングのミスを予期してカバーすることを怠った問題もありました。

でぶっちぎることができない。マツナはそもそもフィジカル頼みのプレーなので、自分と同等のフィジカルを持っている相手には何もできない現状。しかし、カナタを止めることは難しい（カナタはレベルの高い DF 相手にも通用する）と期待していたが、カナタも的確にゴールから遠い所に誘導され、決定機を作らせてくれない。そうこうしているうちに、右サイドでのミスでボールを失い、そしてセンターラインでボールを回収しきれず、山東左サイドに展開され、左 SB の寄せも間に合わないままに的確なフィニッシュを許し、逆サイドネットを揺らされ**先制を許す**。まあ、「この展開なら（こんなにあいまいなプレーが連続していれば）失点するよな」という気持ち。**酒東は MF もスキルがあるし、DF、MF、FW いずれも素晴らしい。おまけに、GK も安定感ある。来季の Y2 でも楽しみな存在**。対する山東は、跳ね返せない、奪えない、抜けない、パスが繋がらない、トラップできないという、ないないづくし。アウトサイドから相手ゴールに迫るシーンはあるが、クロスボールが合わない。「**シュートが入らない**」の前に「**シュートまで行かない**」。前半はスコアこそ 0 対 1 だったが、かなりひどい出来だった。

後半、何が変わったわけではないが、精神的には開き直ることができた。難しかったらアウトサイドのスペースにボールを落として、愚直に走る。相手 DF を背走させる。そんな粘り強い球際を続けると、当然のように相手ゴール前でのプレーや CK が増えて、チャンスとなる。ただし、酒東の逆襲には変なミスがないし、山東の選手もボールを奪いきれないものだから、相手の速攻が必ず山東ゴール前まで行ってしまう。どこかで相手の前に入って、体を入れてボールを取りに行かないと、すなわち、「**相手のミス待ち**」の消極的なディフェンスでは、「**ミスらない相手**」には通用しないということ。後半の前半は五分五分。まあ、五分五分まで山東が無理やり戻したという感じ。飲水後の後半の後半は、**CB だった 2 年グッチを前線に上げ、同点を狙いに行く**。それによってかけた圧力がはまったか、**2 年コンニャクことショータ**のダフリ CK の低い弾道をグッチがニアサイドで巧く右足でファーに流し込み、ようやく同点。酒東は、故障がちな選手が多らしく、交代選手を次々投入。山東としてはスキルある攻撃の選手が退いてくれてうれしい。押せ押せで後半のうちに逆転だ、と勢いに乗るかと思ったら、SB の GK へのバックパスを相手に奪われる大失態。万事休すというレベルの「アシスト」でしたが、相手が仕損じたというか、GK ジャッカルが見せたというか、相手のドリブルしたボールをダイブして奪い、事無きを得る。**ジャッカルはこの試合、1 対 1 を 3 回くらい止めてくれました。GK 経験僅か 1 年のジャッカルがいなかったら、大差で敗れていた**。そこで延長突入。

延長では、監督である私が「まずは守備から入って」とグッチを CB に戻す。というか、流れ的にグッチを後方に置いても、山東攻勢の延長戦だったので、点が入るのではないかと樂觀してしまっていた。延長後半途中からまたグッチを前線に上げたが、相手の勢いは落ちていたので、守備から入る必要はなかったか。そう、前半 35 分は酒東○、山東××、後半 35 分は酒東△、山東△、延長 20 分は酒東×、山東○という流れだったので、**積極策を取るべきだった。10 月から新しくコーチに就任した佐竹コーチからも試合後指摘され、自分の采配を悔やみました**。

結局、1 対 1 のまま延長戦を終え、PK 合戦に突入。近年 PK 合戦に勝った記憶がない。負け続けている。何連敗かはわからないが、大事な試合で勝った記憶で言えば、**フトシの代（山東 69 回卒）**が 2 年生の時に選手権で興譲館に勝った以来か。あとは、**ニコラスの代（70 回卒）**に県総体で鶴東に負け、今年の県総体にて**テグチの代（72 回卒予定）**で興譲館に負けた。その 2 回の PK 合戦負けは、「置きに行つて」簡単に相手 GK に読まれるという気持ちの弱さ

が現れた。この流れを変えるのは今回だ！ ということで、「置きに行こうにも、90分戦って疲労がある今では、うまく行かない。ここは強いボールを蹴ろう。」と声をかける。まずは、一人目に指名した選手に「ど真ん中に思いっきり蹴れ。その後（相手GKが）早めに動けなくなるから。」と指示。でもですね～、今年の県総体で**ト○バッチ**が真ん中に思いっきり蹴ったはずが、めっちゃ大きく外すという事件も頭をよぎる。「大丈夫だ、お前はト○バッチとは違う。」と送り出したのですが・・・**この指示が余計だった**。その一人目は真ん中に蹴ったはずが左にずれてしまい、右に飛んだGKにあっさり止められてしまう。山東の選手のPK成功率の低さに笑うしかなかった。その後の4人はしっかり決めてくれた。しかし・・・これまた試合前から、「PKになって読む方向決まったら、相手が蹴る前に動け。ゴールライン上だったら動いていいんだから。」と指示していた。相手の二人目くらいのキッカーの時、弾くまであとわずかだったので、「ジャッカル、先に先に」とベンチから声をかけた。**このコーチングがまた良くなかった**。四人目のキッカーの時、ジャッカルめっちゃ早く右に動いた。相手のボールはまんまと右サイドネット付近に。しかし、ボールが来る頃にはジャッカルはすでにそこに（上半身ではなく）足があった。しかし、**自分の足元にいきなりボールが来たもんだから、ジャッカル慌てた。何とGKがサイドで股を抜かれてしまい、止められず**。「おいジャッカル、いくらなんでも早すぎだろ。上半身がサイドネットに間に合うタイミングだよ。」というのは、試合後にかけての言葉。結局5本すべて決められ、**4対5でまたPK合戦負け**。

確かに、酒東は、安定感あるGK、粘り強いDF、スキルあるMF、スピードのあるFWと穴がなかった。対して山東は、**絶好調のGKジャッカル、細身で高さはさほどではないが速くてハートの強いDFタリョウ、攻守の要グッチ、前線の切り札カナタ**以外は、「相手に勝っていた」とは評価できない。ということで、**酒東は勝利に値するチーム**でした。**決定機も少なくとも山東の倍はあった**。山東は、攻めているような時間にも決定機は作れていなかった。ただですね、延長まで行って、山東押し押しの時間帯もあって、そんでもってPK合戦負けはキツイですね。応えました。

11月6日の2回戦では酒東は優勝候補の一角である山形中央に対して先制して苦しみ、今度は逆に1対1からのPK合戦負けという惜しい敗戦を喫しました。「やはり、酒東、力があったんだ。」優勝候補相手の酒東の善戦に妙な安堵を覚えました。

これで今期の公式戦は早くも終了。ん～、もっと戦いたかった。もちろん、村山地区1年生大会ありますが、これは公式戦ではない交流戦ですからね。もちろん1年生諸君がやたら気合い入れる大会であることはわかりますが。日程は別紙の通りです。応援よろしくお願ひします。

ともかく、来春躍動できるように、冬場にトレーニングします！

新しい横断幕完成！

選手権からお目見えしましたが、このたび保護者会の皆様に新しい横断幕を作って頂きました。これまでの横断幕⁴が強風と経年劣化により破れてしまったこと、保護者会費に余裕があったことにより。これまでの横断幕もマネージャーが補修して使える状態ですが、**新しいものはコンパクトかつ濡れても大丈夫のテント生地**。山形の紙器業から出発して、いまや看板や

⁴ 約30年前、佐竹コーチや私の代が高校三年生のときに宮崎IHに出場したのですが、その時に保護者会で作ってくれたものです。その文言「フィールドを駆け抜ける風になれ」は佐竹コーチのお父さんの発案だそうです。

のぼり、横断幕も手掛ける**株式会社大坂屋さん**に作ってもらいました。

文言は「燃えよ東魂」。読みは、「もえよとうこん」「もえよひがしだましい」「もえよどらごん」と複数ある模様⁵。当初、アントニオ猪木にちなんで「燃える東魂」にしようとしたが、一部の人しか喜ばせないな（選手は喜ばないな）と考え、「燃えろ東魂」か「燃えよ東魂」にしようと思い、国語のベテラン先生にお聞きしたところ、「燃えよでしょ」と即答。これで「燃えよ東魂」と決定。選手発案の文言も出てきたら、「燃えよ東魂」と合わせてアンケート取ろうと思ったのですが、選手からの発案はなし。「顧問の発案ある」とは伝えていない中なので、選手のアイデアが出てこなかったのは寂しかったのですが、結果として良い横断幕になったと大満足しております。**保護者会の皆様、ありがとうございました**。これまでの横断幕同様、大切に掲げさせてもらいます！



佐竹コーチ就任

このたび 10 月から佐竹コーチが就任することとなりました。佐竹コーチは、私と山東同期の山東 43 回卒。現在**山形大学病院で整形外科医**として活躍しております。1 年生に息子ヤマトが入学したのを機にグラウンドに来てくれるようになったので、「いっそコーチに就任して、（保護者としてではなくコーチとして）堂々と来て指導してよ」と依頼し、快諾してくれました。彼は 1 年生の保護者代表でもあるので、後に、コーチにして保護者会長が誕生することでしょう！

彼は**山形大学医学部サッカー部の監督**もしており、みずから Over40 の山形県代表として活躍する**現役プレイヤー**でもある。週 4 くらいでサッカーしているとのこと。私も負けてられない、とばかりに、「まずは格好から」ということで、先日サッカーシューズ（モレリアの黒）を買いました。

佐竹コーチ、高橋コーチ、今野で B 戦に出る日も近いでしょう！！

⁵ そういえば、後援会の皆様が昨年作って下さったキーホルダーにも「東魂」の文字がありましたね。